



news release

北海道コカ・コーラボトリング株式会社 〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
[URL] <http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>

2023年5月11日

報道関係各位

産学連携で持続可能な社会を目指して エコフィード 100%肥育牛の出荷について 酪農学園主催による記者発表会を開催

北海道コカ・コーラボトリング株式会社（本社：札幌市清田区 代表取締役社長：佐々木康行）が、学校法人酪農学園（所在地：江別市文京台 常務理事：西田丈夫）と共同研究を進めている『エコフィード^{※1} 給与対象肉牛』が順調に肥育しこの度出荷を迎えました。

つきましては、下記の通り学校法人酪農学園主催で記者発表会を開催いたしますので、ご案内申し上げます。

記者発表会のお知らせ

日時：2023年5月15日（月）13時00分～14時00分
場所：酪農学園大学 研修館（江別市文京台緑町582番地）
出席者：学校法人酪農学園 常務理事 西田 丈夫 様
イオン北海道株式会社 代表取締役社長 青柳 英樹 様
当社 代表取締役社長 佐々木 康行
内容：1) エコフィード肥育牛の出荷に関する説明・質疑応答
2) 写真撮影
3) 試食会（日本短角種）
その他：本取り組みはSDGs12、17の他、複数の達成目標を横断した取り組みとなっております

この取り組みは、2021年7月締結の酪農学園大学とのSDGsに係る包括連携協定の細目協定の一つである「教育・研究に関する取り組み」のうち、酪農学園大学は企業が食品製造の際に排出される加工副産物、製造残渣を利用した家畜用飼料の開発に取り組み、循環型社会の形成に寄与するエコフィードの研究を推進。当社はお茶製品製造時に発生する茶粕を酪農学園大学へ提供し、茶粕発酵サイレージ化^{※2}への共同研究を行っています。

エコフィードの利用を推進することで、廃棄物量の削減、国内飼料率の向上、飼料価格の安定、畜産農家の経営安定につながるほか、地産地消や製造過程の公表、安心安全な食肉生産という観点からも持続可能な社会の構築に寄与します。

※1 エコフィードとは

環境にやさしい(エコロジカル)や節約する(エコノミカル)等を意味する「エコ」と飼料を意味する「フィード」を併せた造語。1.食品製造副産物 2.余剰食品 3.調理残渣 等を利用し製造された家畜用飼料

※2 茶粕発酵サイレージとは

当社札幌工場で製造の「お茶製品製造残渣」を小麦粉、ふすまなどと混合、約1か月の発酵期間を経て完成。これを肉牛用の餌として給与。



当社は、「北の大地とともに」をスローガンに、どさんこ企業として北海道の魅力をさらに高める活動、地域課題解決への協力、次世代を担う子どもたちに将来の地球の姿を考える場の提供、安全で安心な地域づくりを応援する取り組みなど、事業活動を通して継続的に推進してまいります。



<本件に関するお問い合わせ先>

北海道コカ・コーラボトリング株式会社 広報・サステナビリティ推進部
担当：高橋 TEL 011-888-2091

【参考資料：学校法人酪農学園との包括連携協定について】

具体的な協働の取組みとして、SDGsの推進に向けて以下の3点を中心に両者協働で進めております。

① 資源循環を目指す取組み

酪農学園の敷地内で発生した清涼飲料水のPETボトルの空容器を100%回収し、リサイクル処理して、再び飲料の容器として再利用する「ボトル to ボトル」による資源循環の実現を目指します。また、学園内に設置された自動販売機ではPETボトル製品のみを販売し、PETボトル製品を国内水平リサイクルすることで持続可能な環境負荷低減につなげます。その他缶製品のリサイクルにも取り組む他、回収ステーションや分別BOXでリサイクルの啓蒙を図ります。



② 災害支援に関する取組み

酪農学園は災害発生時の飲用水として、当社が販売した備蓄水や、当社の在庫とした備蓄水を倉庫保管します。これら備蓄水は自動販売機での販売や、学園内の会議用の飲料水として使うローリングストックを活用することで賞味期限切れによる食品ロスを軽減し、効率的な管理を実現します。また災害発生時には、構内に設置してある16台の災害対応型自動販売機内から在庫商品を無償で提供します。その他、災害発生により、酪農学園内で飼育されている家畜の飲み水が不足した場合には、当社が必要な飲み水を確保し、運搬・供給します。



③ 教育・研究に関する取組み

酪農学園は企業が食品製造の際に出る食品残渣を利用して作る家畜用飼料の開発に取り組み、循環型社会の形成に寄与するエコフィードの開発研究を推進しており、当社はお茶製品を製造する際に発生する茶粕を酪農学園へ提供します。

